

1 題材名 『マイクラス漢和辞典』をつくろう！

2 目標

- (1) クラスメイトと協力して、クラス独自の漢和辞典を作ろうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 友だちの発表内容を聞いて、表現のよさに気づくことができる。(話す・聞く能力)
- (3) 新聞記事を読み、自分が気になった漢字を見つけることができる。(読む能力)
- (4) その漢字を実際、文脈の中で使うために、簡単な成り立ち物語を作ることができる。(書く能力)
- (5) 漢和辞典の使い方(音読み・訓読み・部首名・画数等)についてほしい理解している。  
(言語についての知識・理解・技能)

3 題材について

本単元では、漢和辞典の使い方に関心、分かること、知ることの楽しさの一端を味わうことが大きなねらいである。国語の学習は言葉の学習でもあり、特に漢字は日本語で生活しているかぎり必要なものである。日常生活で読めない漢字があると、前後の文脈で意味を理解しようとするが、それでも理解できないときには漢和辞典を使って調べることになる。今回の一連の授業を通して、言葉や漢字に興味をもち、わからない・読めない漢字が出てきたら、すぐに辞書を引くような生徒を育てていきたい。

生徒の実態調査 (アンケート 平成*年*月*日実施 *名)
・漢字の部首や画数は、 だいたいわかる(自信がある)。 *名      わからない(自信がない)。 *名
・漢和辞典を今までに、 使ったことがある。 *名      使ったことがない。 *名
・本を読んでいて、わからない言葉が出てきたら、 辞書で引いて調べる。 *名      何となく想像する。 *名      とぼしてしまう。 *名

本学級の生徒は、授業中、教師が指示したことはきちんとやり、家庭学習などでも漢字ドリルを使って学習している様子が見られる。しかし、上記のアンケート結果からもわかるように、ほとんどの生徒が部首をわかっておらず、その漢字がどのような成り立ちを経たのかも理解していない。また普通の授業で国語辞典を頻りに引かせているが、漢和辞典は使ったことがない生徒が意外に多い。漢字の部分に着目させる学習を、小学校の時に学んできて、生徒は多少なりとも漢字の構成「部分」に知識がある。しかし、その知識と、自らの漢字習得とが結びついておらず、一挙に増えてきた新出漢字に学習が追いつかず、漢字学習に負担を感じ始めてきた生徒もいる。

そこで、本単元では、こういった時期に、漢字の成り立ちや組み立てに着目させることは、漢字の意味を押さえると同時に、漢字の形には一定の型があることを知ることになり、合理的に漢字習得ができることにつながると考え、本単元を設定した。漢字が苦手だと思い始めている生徒に、少しでも興味を持って取り組み、漢字学習を積極的かつ自主的にやっていく一つの突破口としていきたい。

4 指導と評価の計画(4時間取り扱い、本時は3時)

時	学習活動・内容	評価の観点					評価規準
		関	話	書	読	言	
1	・ どのような時に漢和辞典を使うか説明する。 ・ 漢和辞典の使い方に慣れる。	○				◎	漢和辞典の使い方を理解することができる。
2	・ 新聞を読み、自分が気になった漢字を見つけ、辞書を引いて調べ、ワークシートに書く。	○			◎		新聞を読み、気になった漢字を見つけることができる。
3	・ 漢和辞典に載っている成り立ちをもとに簡単な成り立ち物語を書く。	○		◎			漢字の成り立ちを理解した上で、物語を完成することができる。
4	・ 「あっとおどろく漢字の話(誕生物語)」の発表会をしよう。	○	◎				友だちの作品や表現のよさに気づくことができたか。

5 本時の学習

(1) 目標

漢字の成り立ちを理解した上で、漢字の誕生物語を作ることができる。

(2) 研究テーマとの関連

互いの作品を読み合うなど、「作品の交流」をさせることで、多様な表現方法を知り、表現力の向上を図りたい。

(3) 準備・資料

国語教科書、ノート、国語辞典・漢和辞典、ワークシート、色鉛筆、四コマ漫画シート、新聞、古文字

(4) 展開

(評) は評価及び評価の方法

◎は研究テーマとの関連

学習内容及び活動	援助・指導上の留意点と評価
<p>1 ことば遊びをする。(「千秋楽のふれ」)</p> <p>2 前時までの学習を確かめ、めあてを意識する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「あっとおどろく漢字の話 (誕生物語)」を作ろう。</p> </div> <p>3 みんなが「あっとおどろく」ような漢字の話を創作する。</p> <p>(1) 書く内容は、以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「( )の漢字のなりたち」の話 (タイトル)</li> <li>・「もの」→「漢字」になっていく絵</li> <li>・その話の中身・内容</li> </ul> <p>(2) レイアウトは自由とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ことばとの出会い」を大切に、ことばに興味を持ってもらうために、毎時間取り入れている活動である。</li> <li>・古文字を見せながら、漢字のなりたちについて、再度確認する。</li> <li>・長さの指示はしない。長くても短くても良いことを伝える。</li> <li>・活動形態は、グループ学習(4人前後)を中心とするが、一人でやりたい場合は、それでも良いことを伝える。</li> <li>・どんどん話が創作できる生徒には、次の漢字の話を作よう指示する。</li> <li>・それでも時間があれば、「字のない四コマ漫画」の創作をさせ、完成させる。</li> <li>・なかなか筆が進まない生徒は、ペアを組み(ペア学習)、机間指導しながら、あるいは辞書を引きながら、活動が進むよう配慮していく。</li> <li>・「あっとおどろく」ような漢字の話は、あくまで創作なので、正解・不正解にとらわれることなく、子どもの創造性を大切にしたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>(評) 漢字の成り立ちを理解した上で、物語を完成することができたか。(観察, ワークシート)</p> </div>
<p>4 完成した生徒同士で、作品の交流をする。</p> <p>5 学習を振り返るとともに、次時の学習のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「あっとおどろく漢字の話 (誕生物語)」の発表会をしよう。</p> </div>	<p>◎互いの作品を読み合い、友だちの表現方法の「よいところ」に気づかせることで、表現力の向上が図られるよう、配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習をふまえて、次の発表会に向けて、自分の課題をもち、練習ができるようにする。</li> </ul>